

日本女性科学者の会 NEWS



The Society of Japanese Women Scientists

No.112 2013.3

I. 新春懇談会報告

1月27日の午後、アルカディア市ヶ谷で新春懇談会が開催された。はじめに、大倉会長から「SJWS会員は科学者として社会的活躍をリードする立場にあることを認識して欲しい」と、新年のご挨拶があった。次いで、内閣府男女共同参画局の佐村知子局長からご挨拶を頂いた。佐村局長は「女性の活躍が未来を創る」のタイトルで講演された。男女参画指数の国際比較をみると日本は「人間開発指数」と「ジェンダー不平等指数」では上位にあるが、「ジェンダー・ギャップ指数」では135カ国中101位という下位にあり、日本の女性参画には分野によるバラツキがあることを示された。講演後の質疑応答でも、局長はメモを取られ、「これは持ち帰って検討致します」と誠実に対応された。2020年案件、すなわち2020年までに指導的地位に立つ女性の割合を少なくとも30%にするという国の目標に関して話題が集中した。当日のテーマは「SJWSホームカミングデイ」で、2人のSJWS奨励賞受賞者による講演があった。受賞者の報告では、奨励賞受賞は地元マスコミの取材を受け、かなりの反響があっ

SJWS 理事 濱中 すみ子

たようで、これは本会として大変に喜ばしいことである。第15回受賞者の高橋まさえ会員（東北大学）は「テラヘルツ帯振動の第一原理計算～農学分野への応用を目指して」、第16回受賞者の杉浦美羽会員（愛媛大学）は「社会ニーズにおける光合成研究」のテーマで、現時点での研究の概要と方向性を紹介した。懇親会は、佐々木政子元会長の乾杯の音頭に始まり、軽食を摂りながら出席者の現況報告を聞き、交流を深めあった。



SJWS 大倉会長
挨拶

新春懇談会2013プログラム

テーマ：SJWSホームカミングデイ
日 時：2013年1月27日（日）13：00～16：00
場 所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）
出席者：25名

司 会：濱中すみ子 SJWS理事
開会挨拶：大倉多美子 SJWS会長
講演1：女性の活躍が未来を創る

内閣府男女共同参画局 佐村知子

講演2：テラヘルツ帯振動の第一原理計算
～農学分野への応用を目指して

東北大学大学院農学 研究科附属
先端農学研究センター

高橋まさえ（2010年度SJWS奨励賞受賞者）

講演3：社会ニーズにおける光合成研究

愛媛大学無細胞生命科学工学研究センター
杉浦 美羽（2011年度SJWS奨励賞受賞者）

懇親会

目 次

I. 2013年新春懇談会報告.....	1
II. 平成24年度東京ウィメンズプラザフォーラム... 参加した福島高校女子学生・若手研究者の感想	3
III. 第9回日本女性科学者の会 学術大会報告.....	8
IV. 本会第2代会長 幾瀬マサ、第2回功労賞受賞者 石井道子 両先生を偲んで	10
V. 会員の活躍：東日本大震災被災者への支援と 受賞・表彰者.....	11
VI. 2013年新春懇談会および第9回学術大会風景 ...	12

新春懇談会2013に参加して

アガペ甲山医学研究所 河盛 阿佐子

1月27日に年1度の女性科学者の新春懇談会が開催され、2010年度と2011年度受賞者の研究についてのお話がありました。2011年度受賞者の杉浦さんは私のこれまでの研究と同じ分野の光合成の研究についてわかりやすいお話でした。私はこれまで東京で開催される会にわざわざ出かけることはなかったのですが、初めて参加致しました。参加者は30名弱で年配の方から若い方までいらっしゃいました。懇親会の間皆様の自己紹介で研究についてのお話を伺いました。会にはどちらかといえば年配で大学や研究機関で責任あるポストについておられる方が多かったようで、もっと若い方が参加して自分の研究について問題提起とアドバイスするような会合であればよいと感じました。私は大学での教育から定年退職したのが10年前で、家族が全くいないので退職金をつぎ込んで自分の研究手段の設備をセットするため、母の亡くなった病院の院長にお願いして研究所を西宮市の甲山の麓に建て、対象を医学に変えてESR（電子スピン共鳴）で採取血液を研究しております。

女性科学者の会がスタートする前、私は大阪大学で理学博士の学位をとり順調に関西学院大学理学部で教育と研究を思い通りに続けていました。したがって会がスタートしたときそんなものが必要か疑問を持っていました。しかし、当時理工系増設ブームで新設の理学部に招かれたことはたまたま幸運だったことと後でわかってきました。私は物理学科の教員でしたが、その後教員を採用するとき、応募した人の業績の数が女性の方が少ないとかで以後女性教員は採用されず、また化学科では業績が良くても地位は低い方に採用されたりしました。新しく増設された情報学科では、私が定年退職後のことですが、女性も男性も差別なく採用されたようです。現実にはやはり女性の雇用の機会は少なく、まだまだ女性科学者は結束して雇用の機会を増やすように各界に働きかける必要があるようです。

世界の国々については、例えばアメリカ合衆国ではある割合で女性や黒人の採用するよう法律で義務づけております。インドなどでは私は男性教員を学術振興会でまた女性教員を大学の奨励金で招きましたが、研究は女性の方が優秀だったけれど大学での地位は低かったようです。ヨーロッパでは、雇用の機会に男女差別はあまりないようです。アジアでは韓国の大統領が選出された機会に女性議員をはじめ女性の社会貢献の機会を増やす試みが始まったようです。

日本では国会議員も女性の人数がすくなく、各界の要職についている女性も少ないようです。女性科学者の会で大学、公務員、企業で3～5割女性を採用するよう法律ができるまで提起して頑張る必要があるようです。また女性もユニークで有用な研究をして他の研究者と比較されることのないよう頑張るべきと思います。



Ⅱ. 平成24年度東京ウィメンズプラザフォーラム

日時：2012年11月9日（金）18：00～20：30

場所：東京ウィメンズプラザ（渋谷区神宮前）

出席者：60名

プログラム（敬称略）

18：10 ご挨拶 大倉多美子（SJWS会長）

第1部 科学の楽しさを知ろう♪

18：15 日野珠美（NHK 報道局報道番組センター チーフプロデューサー）

18：25 勝山雅子（株式会社資生堂 食品研究開発センター 副主任研究員）

18：40 阿部啓子（東京大学大学院 農学生命科学研究科 特任教授）

18：55 高橋真理子（朝日新聞 編集委員）

19：10 パネル・インタビュー

19：25 小休憩

19：30

第2部 ネットワークを広げよう♪

20：30 閉会



東京ウィメンズプラザフォーラム

サイエンスネットワークを広げよう — 科学の楽しさを知ろう — 開催報告

本企画はSJWSが平成24年度 東京ウィメンズプラザフォーラム公募に参加企画を申請し採択されたもので、科学に携わる仕事を持つ女性、理系学生・院生、理系進学を希望する中高生・保護者、等が一堂に集まり、科学の楽しさとネットワークを広げるための啓発的なワークショップ開催を目的とした。

第1部「科学の楽しさを知ろう」では、4名の招聘講師から熱気あふれる雰囲気の中で仕事の内容そして励ましの言葉も頂き、参加者へ感銘を与えた様子であった。つづく第2部では、「サイエンスネットワークを広げよう」との趣旨で、4グループに分かれた参加者の間を講師が順番に回りながら直接対話頂いた。研究者と直接話す機会のない学生の方々も活発に質疑応答し、目を輝かせて対話する姿が印象的であった。およそ60名の参加者は中高

生、大学・大学院生、研究者、が3分の1ずつというバランスの取れた構成となり、特に今回はSJWSがかねてより被災地支援の在り方を模索していたので福島県立福島高等学校から12名の生徒さんを招聘しご参加いただいた。今回の企画により、科学者と学生が一堂に会することで、相互にインパクトある対話が出来、なおかつ新たなネットワークを構築する契機になったと考えられる。このような試みへの要望は多く寄せられ、今後も繰り返し行うことが有効であると考えられるので、アンケート内容も解析し今後の活動へつなげる具体策を検討して行きたい。特に福島高校からは講師派遣等のご要望も頂いている。個人的なご寄付も得て、本企画は当初の目的を十分達成し、まことに成功裡に閉会できたことをご報告し感謝いたします。

（文責：本間美和子SJWS理事）

Ⅱ. 平成24年度東京ウィメンズプラザフォーラム

東京ウィメンズフォーラム ～参加者の声～

東京大学大学院博士課程在籍 吉田碧さんから

2012年11月10日、「平成24年度東京ウィメンズプラザフォーラム」が開催され、日本女性科学者の会 (SJWS) の企画「サイエンスネットワークを広げよう！科学の楽しさを知ろう！」に参加してきました。会の前半では、第一線で活躍されている4人の女性講師：高橋真理子さん（朝日新聞 編集委員）、阿部啓子さん（東京大学大学院 農学生命科学研究科 特任教授）、勝山雅子さん（株式会社資生堂 食品研究開発センター 副主任研究員）、日野珠美さん（NHK 報道局 報道番組センター社会番組部 チーフプロデューサー）のお話を伺い、後半では講師の方を交えて参加者とディスカッションしました。

ディスカッションで印象に残ったことは、任期付の研究職（アカデミック）は育休が3か月ほどしか取れないという問題です。私自身、アカデミックの

研究職は、企業に勤めるよりも女性が働きやすいという漠然としたイメージを持っていたので、現役の若手研究者の方々のお話を伺って驚きました。日本では、男性が育休をとることがまだまだ一般的ではないですから、これが原因で研究職を諦める女性は少なからずいるはずです。保育施設の不足も、状況を悪化させています。この状況が続けば、日本人の女性PIが少ないままになってしまいます。しかし、そんな困難を乗り越えていこうとする先輩方に今回お会いでき、そのタフさに感銘を受けました。研究に対する情熱が、原動力なのでしょうね。



福島県立福島高等学校2年生 YKさんから

この度は素晴らしい企画にお招きいただきありがとうございました。一流の企業や大学で活躍する女性の方々の話を直接聞いたことは、たいへん貴重で有意義な経験になりました。

第1部の講演では、それぞれの仕事内容やその特色、また今に至るまでの経緯なども語っていただきました。新聞やテレビ番組、化粧品などはとても身近なものですが、それが出来上がり世に出されるまでのプロセスを聞くと、今まで知らなかったことの多さに気づかされました。また、女性ならではの視点ということで、理系における女性への待遇やその変遷などについても話をうかがうことができました。私自身はあまり深く考えていませんでしたが、日本ではまだ理系女子学生の数も少ないということで、社会を牽引していくような存在を目指す必要があると感じました。

第2部では、将来に向けた深い話から日常の何気ない話まで、和気藹々とした雰囲気のなかでフリートークを楽しむことができました。なかでも私が印象に残ったのは、「文理分け」と実際の社会との矛盾についての話です。日本の制度として文理分けは存在しますが、社会に出てしまえば文理や出

身学部による境界はほとんど無いに等しく、さまざまな分野が融合し合い研究や開発が進められているのだという事実を、実際に働く方々からお話いただくことで改めて実感することができました。私は最近、大学の学部選択で迷いを感じていたのですが、「この学部に進めばこの将来が待っている」というような確約されたものはないという声を受けて、やはり自分が今本当にやりたいことを進路選択に生かしたいと思いました。その上で、どんな将来を生きることとなっても常に自分の意志と向上心を持ち、日々に充実感を得られるようにしたいです。

全体を通すと、科学についてはもちろんのこと、自分自身や将来についても見つめ直すよききっかけになったと感じています。まさに今活躍している素敵な方々に囲まれることで、毎日の学習・部活動に対するモチベーションも上げることができました。今後よりいっそう努力をかさね、今回講演していただいた4人の方のように、生き生きとした、『できる』女性を目指したいと思います。今回は本当にありがとうございました。



Ⅱ. 平成 24 年度東京ウィメンズプラザフォーラム

福島県立福島高等学校2年生 NOさんから

私は今回、自分の目標を達成するためのやる気を持ちなおせるのではないかと思い、この会に参加させていただきました。私には将来宇宙探査機のエンジンの開発に携わりたいという夢があります。そんな夢を持っているのですが、成績は伸びず下がる一方で、やる気も失い、しまいには志望大もわからなくなってしまうような状態でした。この会に参加し、人生において自分の先輩である女性研究者の皆様の話を聞くことが、現状を打破する糸口になるのではないか思ったのです。

実際にこの会に参加させていただいて、私は自分の夢と夢に向かって今やっていかなければならないことについて考えさせられました。女性研究者の皆様ひとりひとりのスライドには、その人全てが映し出されているようでした。自分の研究や作品を説明するとき研究者の皆さんの顔が輝いていたのが一番印象に残っています。また、“大学に入る事”は人生におけるただの通過点に過ぎないということを切実に感じました。自分には夢がありながら、“大学に入る事”が今の全てになっているようなところがありました。でも、みなさんのお話を聞いていると、“大学に入る事”よりも“就職先を決めること”を重視することも自分への夢の近道なのかも感じました。

研究者との座談会では、普通の高校生活を送っているだけでは絶対にお目にかかることができないよう

な素晴らしい皆様と、少人数でお話することができたのがとても嬉しかったです。始め、女性研究者の方々を目の前にすると緊張でなかなか話し出すことができませんでしたが、研究者の皆様はとても気さくな方ばかりで、さらに自分の“宇宙探査機のエンジンを開発したい”という夢に応援の言葉をいただけたのが本当に嬉しかったです。この先、どんなに大変でもこの夢を叶えなくてはならないなと思いました。

この会で、私は自分がやりたいことに一生懸命な女性研究者の姿にとっても憧れを抱きました。これはどんな職種の方にも言えることですが、自分のやりたいことに一生懸命な人は、どんなときも輝いていて、その姿は人々に夢と勇気を与えます。私は将来絶対に宇宙探査機のエンジンの開発に携わります。この世界の女性研究者はまだ多くはありません。でも、私はそんな世界で活躍し、成果を残し、将来是非ここに呼んでもらえるような人間になりたいと強く思いました。自分の夢に自信を取り戻してください、そして将来この会に呼んでいただきたいという新たな夢を与えて下さり本当にありがとうございました。全てこの会に参加させていただけたから得られたことです。私は今後も自分の夢に向かって、どんな大変なことにも立ち向かっていき、絶対夢を叶えたいと思います。今回は招待していただき、本当にありがとうございました。



国立精神・神経医療研究センター
博士研究員 四谷理沙さんから

女性として仕事を続けて行くには何が必要かを
知りたいと思い、前半の4人の講演者の方のお話
を聞きました。4人の方に共通していたのは、ど
んな状況でもポジティブに捕らえ、次にどうす
るのか、どうしたいのかを常に考えている点だと思
いました。部署の移動命令や限られた条件の中
での仕事をマイナスに捕らえず、そこから得られ
ることを見つけたり、新しいアイデアを出したり
したことが、その後の活躍に活かされているのだ
と感じました。また、女性ならではの視点を持ち
続けることが大切なのだと思います。出産、育
児を経験されても職場の第一線で活躍されてい
るお話を聞き、女性は職場を離れなくてはいい

期間がありますが、前向きに変化を楽しみ、周囲
の理解を得ながら、自分で考え、続けることが大
事なのだと思います。

後半のネットワークを広げようでは、産休、育
児休暇の制度についての話が出ました。企業に勤
める方と大学や独立行政法人の非常勤の身分では、
まだまだ制度に差があり、任期のある非常勤にとっ
ては、仕事を一時中断することが非常に厳しい状
況にあることが分かりました。阿部先生から早く
自分で自分の研究を自由にできる立場を目指すこ
とが大事であり、科研費や研究助成の募集に積極
的にチャレンジすることが大切であるとのアドバ
イスを頂きました。研究を続けるためには、研究
結果を出すと共に研究費を自分で得ることが大事
であることを改めて感じました。



Ⅲ. 第9回日本女性科学者の会 学術大会報告

日 時：2012年10月8日（月・祝日）10：00～17：00

場 所：アルカディア市ヶ谷 協賛：科学技術振興機構

出席者：50名

セッション1：一般演題（女性科学者の活躍～次世代育成から最先端研究まで）

司会 川口奈奈子（SJWS理事）

1. NWECC夏の学校2012実験・実習B【宇宙の星から学ぶエネルギー：基礎から学ぶ福島事故】報告
○荒谷美智（六ヶ所村文化協会）、中山榮子（昭和女子大学大学院）、
宮本霧子（放射線医学総合研究所）
2. システム生理学による心臓発生過程の探求
佐野ひとみ（慶應義塾大学 環境情報学部）
3. 光で神経活動を調節するナノマシンの開発について
沼野利佳（豊橋技術科学大学 エレクトロニクス先端融合研究所）
4. 小腸内分泌L細胞におけるアミノ酸依存性GLP-1分泌機構の解析
○大屋愛実（東京大学大学院 総合文化研究科広域科学専攻博士後期課程1年）、北口哲也、坪井貴司
5. 海藻食ウニの変態を特異的に誘導するバクテリアの同定
○刑部南月子（お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科博士後期課程2年）、
清本正人、服田昌之
6. ピューロマイシンテクノロジーのあゆみ～第3回資生堂女性研究者サイエンスグラント受賞のインパクト～
宮本悦子（東京大学 医科学研究所）
7. 女子大学生・大学院生のためのリーダー育成の方法と実践「女子中高生夏の学校2012－科学技術者のたまごたちへ」の事例より
松村聡子（千葉大学大学院 園芸学研究科 環境園芸学専攻 生物資源科学コース博士前期課程2年）
8. がん精巢抗原によるゲノム不安定性の誘導と治療応用
細谷紀子（東京大学大学院 医学系研究科 疾患生命工学センター放射線分子医学部門）
（第1回資生堂女性研究者サイエンスグラント受賞者）



ポスター発表

Pepducinの膜透過機構の解明を目指す蛍光プローブの開発とライブイメージング解析
辻美恵子、平山祐、坂口義明、奥田健介、○永澤秀子（岐阜薬科大学 薬化学研究室）

セッション2：テーマセッション「女性研究者のステップアップに必要なアイテム」

挨拶 野呂知加子 日本大学 教授（SJWS理事・第9回学術大会委員長）

ご挨拶 板東久美子 文部科学省 高等教育局長

【研究費】司会：野呂知加子

1. 戦略的に研究費をとる
塩満典子（宇宙航空研究開発機構, JAXA, 国際部 参事）
2. さきがけ研究と私
藤井紀子（京都大学 原子炉実験所 放射線生命科学研究部門 教授）

3. 企業研究者と最先端・次世代研究開発支援プログラム

小杉尚子（NTTコミュニケーション 科学基礎研究所 研究主任）

【奨励賞】【海外体験】司会：板倉明子（SJWS理事）

1. SJWS奨励賞と私 ～ネガティブ要素をポジティブ思考でチャンスに～（2008年度受賞）

近藤科江（東京工業大学 生命理工学研究科 教授）

2. 資生堂グラント 指導的研究者を目指す女性への支援と受賞者たちの活躍

蓑田裕美（資生堂 女性研究者サイエンスグラント事務局 サイエンスコミュニケーター）

3. ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞を受賞して（2007年受賞）

戸張靖子（早稲田大学 教育・総合科学学術院 統合脳科学研究室 研究助手）

【海外体験】

フランス政府給費留学生として博士号取得

新倉ちさと（独立行政法人 物質・材料研究機構 主任研究員）

会長挨拶 大倉多美子

茶話会 ポスターセッション 司会：中山榮子（SJWS理事）



2012年度学術大会報告



第9回学術大会委員長
野呂知加子（SJWS理事）

2012年10月8日（月・祝日）、アルカディア市ヶ谷において、日本女性科学者の会第9回学術大会が開催されました（プログラム参照）。

午前中のセッション1一般演題（女性科学者の活躍～次世代育成から最先端研究まで）では、8名の方にご講演、1名の方にポスターでの発表をいただきました。内容も大変充実しており、先端的な研究に対して、学術的な質問が相次ぎました。現役の大学院生3名の発表もあり、日本女性科学者の会らしい、分野と世代を超えた充実した内容に、大変よかったという声を多数いただきました。

午後のセッションは、まず板東久美子文部科学省高等教育局長にご挨拶をいただいた後、テーマセッション「女性研究者のステップアップに必要なアイテム」と題して、研究費、奨励賞、海外体験に

分けて、7名の方にご講演いただきました。最初に、塩満典子宇宙航空研究開発機構（JAXA）国際部参事より、戦略的な研究費の取り方についてお話いただき、その後は、各機関・各分野でご活躍中の研究者から、ご自身の研究内容と、研究費や賞や海外体験が、いかにその後のステップアップに役だったかというお話をいただきました。いずれの方のお話にも、順風満帆とは言えない状況から、ご自身の努力と周りの助けや幸運などによって、生き残って来た体験が語られていて、聴衆の心を打ちました。奨励賞については、日本女性科学者の会の他、資生堂やロレアルの賞についてもご案内をいただきました。これらの賞は、受賞者のその後のステップアップに大いに貢献したそうで、特に若い人たちにとっては、これからのキャリア形成に向けて、大いに参考になったとのことでした。

ご講演者、ご出席の皆様はじめ、会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

IV. 本会第2代会長 幾瀬マサ、第2回功労賞受賞者 石井道子両先生を偲んで

本会第2代会長 幾瀬マサ先生 訃報

「花粉形態学での基礎を築いた。理系女子学生の教育、第2代会長として貢献」に対し、第2回功労賞を1997年に受賞された幾瀬マサ先生が、2年前に亡くなられたとの報告がご遺族から伝えられました。ここに謹んで哀悼の意を表明いたします。

1914～2011 昭和時代の植物学者。

大正3年11月13日生まれ。昭和35年東邦大教授となり、48年薬学部長。専門は薬用植物学。花粉症対策のため全国から約1500種の花粉を採集して標本をつくり、幾瀬式分類検索法を考案した。日本女性科学者の会会長をつとめた。(日本人名大辞典より転載)



本会第2代会長 ～幾瀬マサ先生を悼む～

佐渡 昌子 (SJWS名誉会員)

本会第2代会長・名誉会員幾瀬マサ先生が、2011年2月22日享年97歳で天寿を全うされました。幾瀬先生(帝国女子医薬専業学科・現東邦大薬)は、故黒田チカ(名誉顧問)先生と故阿武喜美子(名誉会員・初代会長)先生と共に、1967年の日本婦人科学者の会(現・日本女性科学者の会)の発足から参画され、阿武会長の退任の折、指名により2代目会長(1979年5月～1993年8月)として3代目会長故数野美つ子先生に渡されるまでの13年間、女性の地位向上に寄与されました。

ご専門の花粉学分野では、フランスのマダムカンポ・日本のマダムイクセと言われる存在でもあり、1956年には世界的に知られる大著「日本植物の花粉」(廣川書店・東京)を刊行されております。母校の薬学部では学生運動の激しかった中、二度に渡り薬学部長を務められ(1969～70、1973～79)、また薬学部同窓会(鶴風会)理事長も長く務められました(1967～72、1979～89)。

毎年、皇居ではその道の第一人者が招かれ御進講が行われておりますが、植物に御詳しくあった昭和天皇に「花粉について」、お話をされておられました。

戦中・戦後の国難の時代を通じて、男性社会の中で女性の地位向上に先達として尽くされました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

石井道子氏 訃報

SJWS名誉会員、第2回功労賞受賞者、元衆議院議員で環境庁長官を歴任された石井道子先生が12月7日79歳にてご逝去されました。ここに生前の御厚誼を深謝し、謹んで哀悼の意を申し上げます。



石井道子先輩を偲んで

田中(安) 咸子(本会第17回功労賞受賞者)

石井道子先輩は大学の二期先輩でしたが、在学中から私たち同期とは気の合う仲間関係でした。女子薬学の先輩としては異色の事ながら、政治の道を歩まれ、国会議員、国務大臣環境庁長官に就任され、その間「医療人としての薬剤師」の位置づけを法的に明確にされ、医薬分業を進められました。私たち日本女性科学者の会(SJWS)が、故数野会長の時代に初めての国際会議ICWES11(11th International Conference of Women Engineers and Scientists)を開催することができたのも、石井道子先輩に議長に就任していただき地球環境基金から援助していただいたお陰です。これからも天国からSJWSの発展をお見守りください。合掌

V. 会員の活躍：東日本大震災被災者への支援と受賞・表彰者

東日本大震災被災者への「着物による支援」



SWJS関西支部理事
東洋きもの文化協会顧問
玄番 央恵

私の関わっている大阪の「ひろ着物学院」の学院長とスタッフ8名は、2011年の8月13日に宮城県南三陸町へ参りました。それは、あの痛

ましい東日本大震災で被災なさった方々、特に女性に着物、と言いましても時節柄浴衣ですが、浴衣をプレゼントし、その浴衣を可愛く美しく着付けるためでした。丁度その日は「こども夢花火」が開催されましたが、着付け会場で可愛く出来上がった帯結びに歓声を上げるお嬢さん達、また美しい浴衣姿のお孫さんを見つめて涙するお婆さまなどのご様子を拝見し、この着付けに喜んで頂いているように感じられ、とても嬉しかったと学院長が言っておりました。

この大震災のような大災害への復興支援には色々な方法があるでしょうし、まして本女性科学

者の会のような学術団体においては、上記のような「着物による支援」などは異質な支援方法であり、場違いと言えるかも知れません。しかし、被災地の復興には、被災者もそしてその他の多くの人々も、先ずは明るく元気で意欲的な精神状態である方が望ましいのは言うまでもありません。浴衣を可愛く美しく身にまとうという、本当にささやかな行為でも、そのことで被災者の方々の心をなごませ、良い気分にしたという事実は、彼女らを、明日からの辛い日常を頑張ろうという心理状態にさせるのに多少とも役立ったのではないのでしょうか。

受賞・表彰者一覧（2012年）

1. 田崎和江
金沢大学名誉教授、河北潟湖沼研究所
国際ソロプチミスト 社会貢献賞
2. 岡村恵美子
姫路獨協大学 薬学部 教授
第11回 日本油化学会オレオサイエンス賞



事務局からのお知らせ



「日本女性科学者の会総会及び第18回奨励賞・功労賞授賞式」が2013年6月30日（日）午後16時に学士会館で開催されます。

詳細は後日お知らせいたしますが、まずは日程の調整をしていただくことで、多くの会員の皆様が参加されますように、よろしくお願い申し上げます。

編集：山口 陽子・猪俣 芳栄・小杉 尚子・石野 知子

発行所：日本女性科学者の会 ©

事務局：〒160-0015

東京都新宿区大京町 13-15-203 慶應義塾大学医学部 大倉気付

TEL/FAX 03-6802-6708

VI. 2013年新春懇談会および第9回学術大会風景

